

ISSN 0289-3827

京都女子大学

食物学会誌

第76号

JOURNAL OF FOOD SCIENCE

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

(Kyoto Joshi Daigaku Shokumotsu Gakkaishi)

No. 76

京都女子大学食物学会

FOOD SCIENCE SEMINAR

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

December 2021

食 物 学 会 誌

第 76 号

目 次

研究報文

- 食べる順番の違いが血糖指標に与える影響～主菜を最初に食べた場合～
：無作為化比較クロスオーバー試験
…………… 齋藤 宥希, 小松 聖佳, 森 優花,
梶山 静夫, 今井 佐恵子…………… 1
- Potential usefulness of 75-g oral glucose tolerance test using the flash glucose
monitoring system in a comprehensive medical examination
…………… Momoko Akamine, Nao Uotani, Yasutomo Fukunaga, Midori Ida,
Yoko Saito, Hiroyuki Nishikawa, Misora Ao,
Kiho Miyoshi, Takashi Miyawaki…………… 9
- 抗狂犬病ウイルス核タンパク質 IgY の調製
～アジュバント前投与 DNA 免疫法とタンパク質免疫法との比較～
…………… 久保 七彩, 上羽 智恵美, 門間 敬子, 井上 智,
野口 章, 八田 一……………17
- 精神障害の診断と統計マニュアル 5 (DSM-5) を参考にして検討した
日本の女子大学生における摂食障害傾向と食事内容との関連
……………岩井 香奈枝, 浜垣 誠司, 魚谷 奈央, 宮脇 尚志……………25
- 京だし巻き卵の美味しさと物性評価 その 2
— 専門店の美味しさを再現する家庭調理法の検討 —
……………藤新 令奈, 久保 七彩, 八田 一……………35

資 料

- ジンセノサイド類を含む生薬ニンジンの健康食品の品質評価
…………… 川添 禎浩, 岡崎 綾子, 萩谷 祥子, 中野 有梨,
山田 真由, 岡田 沙紀……………41

京都女子大学食物学会誌投稿規定

(令和3年3月25日改訂)

1. 原稿は食物栄養学科に関係のある総説、研究論文、調査報告、資料、その他（自由論叢、研究室だより、学級・卒業生だより、実習記および見学記など）とする。原稿には前記区分を明記の上、所定の投稿カードを添付する。
投稿者は、本会会員ならびに過去に本会会員であった者（卒業生等）とする。また、編集委員会が認めた者の投稿も認める。
 2. 原稿の取捨は、学会長、学科副主任、運営委員長によって構成される編集会議に一任とする。編集会議は原稿の査読を適切な者（学外者を含むことがある）に依頼する（原則2名）。採択された論文の著作権は学会に委譲するものとし、さらに学会は電子化の権利を有するものとする。本学会誌に掲載された論文等は、原則として京都女子大学学術情報リポジトリで公開される。
 3. 原稿は他紙に未発表のものとする。
 4. 原稿において、研究倫理に反する捏造、改ざん、虚偽、著作権に抵触する表現の搾取等があらならない。
 5. 原稿は報文の場合、刷上がり6頁（400字詰め原稿用紙で27枚）以内とし、A4判用紙に印字する。
原稿用紙4.5枚が約1頁に相当し、凸版図または写真版図共に6×9cm挿入の場合はこのスペースは約500字に相当する。
 6. 原稿の書き方は下記の通りとする。
 - (1) 日本語論文の場合は、和文表題の下に著者名を書き、つづいて英文で表題と著者名を記載し、英語論文の場合は、英文表題の下に著者名を書き、つづいて和文で表題と著者名を記載する。
 - (2) 原稿第1枚の脚注に著者の所属機関の公称名および所在地を日本語と英語で書く。
 - (3) 日本語の研究論文には英文抄録（250語以内）を付ける。英語の研究論文には和文抄録（600字以内）を付ける。抄録は別のA4判用紙に平易な文で簡潔・明確に書く。
 - (4) 文章は平かな、当用漢字を用い、現代かなづかいにより、化学用語は文部省学術用語による。外国語音訳にはかたかなを用いる。
 - (5) 本文の区分はポイントシステムにより、大見出し、中見出し、および小見出しを明確にする。なお、小見出し以下の区分はアルファベットによる。

〔例〕 I. 実験

 1. 実験方法
 - 1) 試薬の調整

A. 試料
 - (6) 句読点およびカッコには1こまを与える。ハイフンは1こまの中に明瞭に書く。新しい行の初めは1こまあける。
 - (7) 一般に適用している物質名、術語などに対しては外国語を用いないこととする。
 - (8) 原則として本文中に元素名、かんたんな化合物名称の代わりにその化学記号、化学式を用いない。
 - (9) 数字はすべてアラビア数字を用いる。数量および術語の略字などは次の例による。
m（メートル）、cm（センチメートル）、m²（平方メートル）、m³（立法メートル）、ml（ミリリットル）、l（リットル）、mg（ミリグラム）、g（グラム）、kg（キログラム）、°C（摂氏度）、%（パーセント）、pH（水素イオン濃度）、b.p.（沸騰点）、f.p.（凝固点）、m.p.（融点）、cal（カロリー）、kcal（キロカロリー）、h（時間）、min（分）、s（秒）、V（ボルト）、kV（キロボルト）、A（アンペア）、mA（ミリアンペア）、W（ワット）、hPa（気圧）、N（規定度）、mol（物質質量）
 - (10) 表、図および写真の番号は表1、表2、……図1、図2、……、写真1、写真2、……、のように表わし、表の説明は表の上に書く。図および写真の説明は、別の用紙にまとめて書く。
 - (11) 図はそのまま縮尺印刷できる様に鮮明に作成する。
 - (12) 図、表および写真は本文中に挿入箇所を明示して、別に添付する。
 - (13) 本文中の引用文献番号は片カッコをつけて、上付で書く。文献は本文の最後に通し番号順に列記する。
 - (14) 引用文献は著者名：雑誌名（書名）（イタリック体）、巻数（ボールド体）、頁数、年号の順に書く。
〔例〕 A. Haas, B. Hill: *Biochem. J.*, **29**, 986 (1932)
 - (15) 引用文献の略し方は原則として日本化学総覧および *Chemical Abstracts* の規定による。ただし、食物学会誌を引用するときは“本誌”と略す。
 - (16) 脚注は*、**で示し、各ページごとに記載する。
7. 原稿には電子データを添付する。
8. 校正は著者が行うことを原則とする。
9. 総説、研究論文、自由論叢については希望者に対し別刷20部を贈呈する。それ以上の希望数に対しては実費を申しうける。希望者は希望数を投稿カードに記入する。

京都女子大学 食物学会誌 第76号 (非売品)

令和4年12月22日 印刷

令和4年1月14日 発行

編集委員代表

編集者 門 間 敬 子

発行所 京都女子大学食物学会
京都市東山区今熊野北日吉町35
京都女子大学家政学部内
電話 (531)7188 (〒605-8501)

印刷所 株式会社 北斗プリント社
京都市左京区下鴨高木町38-2
電話 (791)6125 (〒606-8540)
